

1月の訪日外客71万人に

JNTO調べ

過去最高を記録

国際観光振興機構（JNTO）はこのほど、08年1月の訪日外客数が前年同期比15・2％増の71万1800人と1月単月として初の70万人台を超えたと発表。中国や豪州など6カ国の好景気、チャーター便の運航などがプラス要因として訪日客増に影響を与えた。

中国などの好景気が影響

国・地域別では韓国が同13・0％増の27万1700人。ビジット・ジャパン・キャンペーンの広告効果、チャーター便が多数運航されたことなどがプラスに働いた。

台湾は同21・3％増の10万6600人。家族旅行の需要増、ツアー料金の値下げなどを背景として、訪日客が増加した。

中国は同33・5％増の8万4200人。北京・天津地域での訪日旅行の催行、インセンティブツアーの需要が増加し、初の8万人台となった。

香港は同49・8％増の3万4800人と大幅な伸びを示した。JNTOは「香港の好調な景気、日本各地への定期航空便の拡充が訪日需要を高めたと話している。半面、米国は同0・1

％減の5万4100人にとどまった。JNTOは「信用力の低い個人向け住宅ローン（サブプライムローン）問題を発端とする金融不安の影響で景気が減速。訪日旅行需要にマイナスの影響を与えた」と推測する。英国は日本経由客が中東など他の経由地に流れた影響が大きく、これがマイナスに作用して、同11・2％減の1万5200人。ドイツは同7・7％増の8300人、フランスが同10・2％増の9400人だった。出国日本人数は同3・2％減の136万3千人。円安基調や、20～30代の海外旅行の伸び悩みなどが影響した。

【川村佳世】